

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十七話

「戦後開拓と開拓診療所」(要約文)

○戦後開拓について

新冠は明治から戦後まで、大部分が軍馬を育成するための御料牧場として活用されてきました。その間、牧場として使用している土地は利用が制限される時期がありました。そのようなことから、大正時代には御料牧場の解放を求める運動が起こり、戦後を迎えてようやく全面解放されることとなりました。解放された土地は緊急開拓地となり、間もなく多くの入植者が押し寄せ、本格的な戦後開拓が始まりました。新冠は日高管内において、最多の入植者を記録していますが、これは御料牧場の土地が広大であったことを示しています。開拓地では厳しい環境の中、農業を営みながら精一杯生活していました。しかし、苦しい生活に耐えきれず、農業を辞めてしまった人達も多く見受けられました。

○開拓診療所について

このような厳しい状況下、昭和二十四年、一人の人物が緑丘に診療所の医師として招かれました。長野県出身の矢澤信明医師です。矢澤医師は開拓者として農業を営みな

がら、医師として診療活動を行ないました。まさに「半農半医」の生活です。診療所は当時、御料牧場の事務所を再利用した建物を使っていました。新冠奥地の開拓地の診療が主でありましたが、場合によっては、馬で二十キロ以上も離れた場所へ往診していました。矢澤医師は後にこう語ります。「私は、地域の苦しみがわかる医者になりたいと、ここの診療所を引き受けることにしました。しかし、今思い返すと、私はまともな農業をやつてこられたわけではありません。開拓者は皆貧しかった。私は、患者さんとの間になるべくお金をはさませないように、診療代のかわりに私の畑を手伝っていただきました。地域と共に生きるということを、まず行わなければならないということです。」

地域と苦楽を共にしながら付近住民の健康維持に努めた、後世に語り継ぐべき診療所であったといえます。



開拓診療所のことを伝える石碑
(緑丘生活館の近くにあります)

秋の全国交通安全運動の実施(9月21日(火)～9月30日(木)) 交通事故防止のポイント

- 夕暮れ時の歩行者や自動車の見落としに注意
 - シートベルトは全席着用を
 - 歩行者は反射材を身に付けましょう
- 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
7月	0件(0件)	27件(20件)
3年1～7月	4件(0件)	181件(139件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
7月	0件(0件)	0人(0人)	0人(0人)
3年1～7月	4件(1件)	1人(0人)	3人(1人)

人の うごき

(7月末現在)

人口 5,285人 (前月比 - 5人)
 男 2,587人 (前月比 - 5人)
 女 2,698人 (前月比 ± 0人)
 世帯 2,761世帯 (前月比 + 4世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

